

退避行動作業部会報告書構成案

作業部会
資料6-2
(第6回 H22.3.9)

1. 背景

- ・時代の変遷を経た地震時の心得10ヶ条の普及
- ・E-ディフェンスの実験等により従来適切とされてきた退避行動の有効性の検討が可能

2. 基本的考え方

○検討範囲

- ・地震による揺れもしくは地震情報により人間の行動が制約される時間
- ・一般的な室内空間、屋内から屋外に向かう空間

○検討手法

- (1) 現在推奨されている地震時の行動についての整理
- (2) 地震時の揺れによる人間行動と室内環境の変容についての文献調査
- (3) 推奨されている地震時の退避行動の検証と問題点の抽出
- (4) これまでの地震防災研究を踏まえた退避行動等の提言と今後の課題

3. 地震時におけるこれまでの推奨行動の分類

地震時の心得10ヶ条を目的等で分類・整理

(Ⅰ)命を守る (Ⅱ)火を消す (Ⅲ)近隣と助け合う (Ⅳ)デマやうわさに惑わされない

4. 地震の揺れによる室内環境の変容と人間行動に関するこれまでの研究成果

4.1 地震の揺れによる
室内環境の変容

4.2 地震の揺れによる
人間の行動への影響

4.3 地震の揺れによる
人間の行動と負傷の関係

5. 地震時における推奨されてきた退避行動の検証

推奨されてきた退避行動等の妥当性の検討と問題点の抽出

- (1) 「大きな家具に身を寄せる」
- (2) 「身を隠して頭を保護する」
- (3) 「慌てて外へ飛び出さない」
- (4) 「火を消す」

6. 地震時に人命を守るための適切な退避行動等と今後の課題

○地震時に人命を守るための退避行動等

- (1) 事前対策
- (2) 主要動到達直前
- (3) 揺れの最中
- (4) 揺れが収まった直後
- (5) 避難及び正しい情報の入手

○地震時に人命を守るための退避行動等についての今後の課題

(課題解決に向けた研究内容)

- (1) 基礎的研究の充実
- (2) 複合的な研究
- (3) 利活用促進のための研究